



日本キリスト教団  
**名古屋新生教会** 教会学校だより  
 名古屋市西区天神山3-7 TEL.052-531-1820  
 ホームページ: [名古屋新生教会](#) 検索

### 教会学校礼拝・こどもれいはい お休みのお知らせ

新型コロナ感染拡大の情勢により、愛知県でも「まん延防止等重点措置」が出されています。また名古屋市内でも急激な感染拡大傾向にあるため、

**1月30日(日)～2月13日(日)の教会学校礼拝・こどもれいはい・分級を休止します**(大人の礼拝も同様)。休止期間は状況により延期することもあります。その際にはまたお手紙でご連絡します。休止期間中の礼拝のお話を裏面に掲載しましたので、ぜひ読んでください。

日に日に急増している新規感染者数、各地での休校・休園・学級閉鎖、検査キットの不足など、これまでの新型コロナ情勢以上に感染拡大が私たちの身近に迫ってきているのが実感できるのではないのでしょうか。コロナ時代も3年目に突入しました。慣れや油断は禁物です。

### 2月の礼拝 単元17:主イエスのたとえ話

| 月日               | 週 題       | 聖書箇所               | 教会学校礼拝<br>(小5～中高生)<br>9:00～9:30                              | 分級Ⅰ(小1～小4)<br>分級Ⅱ(小5～中高生)<br>9:35～9:55 | こどもれいはい<br>(幼児～小4)<br>10:00～10:20 |
|------------------|-----------|--------------------|--|--|-----------------------------------|
| 2月6日             | タラントンのたとえ | マタイ福音書<br>25:14-30 | <b>教会に集まっての<br/>教会学校礼拝・こどもれいはい・分級は、<br/>お休みです。(大人の礼拝も休止)</b> |  |                                   |
| 単元18: イエスに出会った人々 |           |                    |  |  |                                   |
| 2月13日            | マルタとマリア   | ルカ福音書<br>10:38-42  |  |  |                                   |
| 2月20日            | 金持ちの青年    | マルコ福音書<br>10:17-31 | 武岡 基   | (状況をみて)<br>プレイ・タイム                     | 武岡 基                              |
| 2月27日            | バルティマイ    | マルコ福音書<br>10:46-52 | 安達正樹牧師   | (状況をみて)<br>プレイ・タイム                     | 安達正樹牧師                            |

### 教会学校 クリスマス礼拝・祝会

12月12日(日)午後

金城学院高等学校キャラバン隊のみなさんと共にクリスマスの礼拝を守りました。礼拝後には人形劇や手遊びをしていただき、子どもから大人まで、みんなで楽しいクリスマスの祝会を過ごしました。



### 今月の聖句

人間にはできないことも、神にはできる。

(ルカ 18:27)

### 今月のさんびか ♪

こどもさんびか 139 (ハクナ ワカिता サ イェス)

教会に集まっての礼拝はしばらく休止になりますが、1月からの続きで2月の礼拝では「イエスさまのたとえ話」、「イエスさまに出会った人々」について学びます。「今月のさんびか」も1月に続いて、139「ハクナ ワカिता サ イェス」としました。歌にくい賛美歌ですが、みなさんようやく何とか歌えるようになってきました。もう少し歌っていくことで、この賛美歌が身につくのではないのでしょうか。私たちは1拍目から歌い出すのに慣れていますが、外国の歌では4拍目から歌い出すことはよくあります。この賛美歌では1拍目の直前の「♪」、つまり4.5拍目から歌い出します。4拍子ですが、1拍目と3拍目のリズムを意識して「ク」「カイ」「イエ」「ス」「さ」「あい」「こう」…が1拍目・3拍目に乗れば、あとは何となく言葉がついてきます。

教会での礼拝が休止期間中ですが、みなさん“自主トレ”で「イエスさまに会いに行こう!」と元気に歌ってみましょう。2月後半からの礼拝再開が楽しみです♪

139

ハクナワカिताサイェス

### おたんじょうびおめでとう🎂

### 2月生まれのお友だち

鬼は～外!

ここ最近「鬼」という文字を見ると、つい「鬼滅の刃」を連想してしまう人も多く、人目を惹きつける文字になっているのではないのでしょうか。和菓子屋さんのお品書きでも鬼まんじゅうの「鬼」だけ強調して書かれているのにも目しました。世の中に「鬼」があふれているのかもしれない。

キリスト教とはまったく関係がありませんが、日本では春を迎える節分(2月3日)に豆まきをして鬼を外へ追い払います。「豆」＝「魔滅」というゴロ合わせもあるようです。昔の暦ではこの節分が一年の終わり、大晦日で、翌日に新しい年を迎えます。ですから、一年の最後に一年間の悪いものやいわゆる「厄」を拭い去るという考え方もありました。「鬼退治」とともに、私たちの中に潜む、鬼や悪魔を追い払うことができるのは私たち自身の心です。心にも魔滅まきたいものです。



1月30日(日) ◇週題：花婿を待つ娘たち ◇聖書：マタイによる福音書25章1～13節



10人の娘たち 今日結婚式です。花嫁衣装を着たお嫁さんがお婿さんのお迎えを待っています。お婿さんが到着したら、お嫁さんはお婿さんと一緒に結婚式のパーティーをする家まで歩いていくのです。お嫁さんのそばには10人の娘がいます。この10人は、ともしびを掲げてお嫁さんの歩く道を照らす大切な役目をします。そして、一緒に結婚パーティーに出るのです。10人の娘たちは、わくわくしながらその時を待っていました。

遅れた花婿 ところが、お嫁さんがなかなかやってきません。「お婿さんはまだからしら…。」10人の娘たちは、待ちくたびれてウトウトしてしまいました。夜もずいぶん遅くなった頃、「お婿さんが迎えに来ました！」という声が聞こえました。

10人の娘は飛び起きました。「たいへん！急いで出かけなくちゃ！」。ところが、ずいぶん時間がたったので、ともしびの火が消えかけています。賢い5人の娘は油を足しました。途中で油が足りなくなっても大丈夫なように準備しておいたのです。



でも、残りの5人の娘は余分の油を準備していませんでした。「困ったわ、どうしよう」。5人は賢い娘たちに「油を分けてもらえないかしら？」と頼みました。賢い娘たちは答えました。「あなたたちあげる分はないの。私たちの分が足りなくなってしまうでしょう。」

5人の娘たちは大急ぎで油を買いに行きました。「急がなくちゃ！」。油を買うと、5人の娘たちは花嫁たちの後を追いかけてきました。

でも、もうみんな家の中に入ってしまった。ドンドン、ドンドン！娘たちはドアをたたきました。「開けてください、中に入れてください！」家の主人が出てきて言いました。「お帰りください。中に入れるのは、お嫁さんと一緒に来た人だけです」。愚かな5人の娘たちは結婚式のパーティーに出られませんでした。

もう一度来られるイエスさま イエスさまはおっしゃいました。「わたしはいつかもう一度この世界に戻ってきます。その時に、油を持っていなかった愚かな娘たちようになってはいけません。目を覚ましてしっかり準備しておきなさい」。よみがえって天に昇ったイエスさまは、もう一度この世界に帰ってこられます。その日、私たちはイエスさまにお会いできます。楽しみですね。でも、それがいつなのかはわかりません。いつイエスさまが戻ってこられても大丈夫なように、いつもイエスさまを信じてお待ちしましょう。



2月6日(日) ◇週題：タラントンのたとえ ◇聖書：マタイによる福音書25章14～28節

お金を預けた主人 ある時、主人が3人の召使いを呼んで言いました。「私はしばらくの間、旅に出ることになった。私がいない間、君たちにお金を預けていから、きちんと管理するように」。主人は、3人の召使いの能力に応じて一人には5タラントン、一人には2タラントン、もう一人には1タラントンを渡しました。1タラントンとは1日働いた人がもらう給料の6000倍にあたりますから、今の日本のお金で考えると、1タラントンは5000万～6000万円といった大金です。2タラントンは1億円以上、5タラントンは約3億円！にもなります。みなさんがこのような大金を預かったとしたら…、どうでしょう？



召使いたちの行い 5タラントン預かった召使いはお店を開きました。「いらっしゃい、すてきな品物がそろっていますよ」。一生懸命働いて、お店は大繁盛です。2タラントン預かった召使いもお店を開いて商売しました。せっせと働いたので、このお店も繁盛して大忙しでした。

さて、1タラントン預かった召使いはどうしたでしょう。「1タラントン、こんな大金を使って何か始めても、失敗したらご主人様に怒られるに違いない。」そう言って、召使いは穴を掘ってお金を埋めて隠しておきました。



褒められた召使いと叱られた召使い やがて長旅から帰ってきた主人が召使いたちを呼び集め「さあ、預けたお金をどのように管理したか教えてくれ」と聞きました。最初の召使いが答えました。「私はお店を開いて5タラントンもうけました。お金は全部で10タラントンになりました。」主人は「よくやった！よい召使いだ、お前にもっとたくさん仕事を任せよう」と褒めました。二人目の召使いも言いました。「私もお店を開いて2タラントンもうけました。全部で4タラントンあります。」主人は「よく頑張った！お前にもっとたくさん仕事を任せよう」と嬉しそうに褒めました。

三番目の召使いが前に出て言いました。「私は、ご主人様のお金を減らしたら怒られると思ったので、お金を隠しておきました。これがお預かりした1タラントンです」。主人の顔つきが変わりました。「怠け者の悪い召使いだ。失敗が怖いから何もしなかったのか。そんなことなら他の人に任せればよかった！もうお前には何も任せないことにする」と召使いを叱りました。

さて、このたとえ話にはどんな意味があるのでしょうか。ご主人様とは神さまのことです。タラントンは私一人ひとりに与えられている大切な宝物です。それは優しい心や元気な体、勉強が得意な人もいれば運動が得意な人もいます。一人ひとり違った宝物がたくさん与えられています。その良いものを、神さまや人のために使ってほしいと、神さまは願っておられるのです。みなさんにとって自分に与えられた「宝物」とは何でしょうか。



2月13日(日) ◇週題：マルタとマリア ◇聖書：ルカによる福音書10章38～42節

イエスさまがいらっしゃる マルタとマリアという姉妹がいました。お姉ちゃんはマルタ、働き者です。妹はマリア。二人とも、イエスさまのことが大好きでした。

その日、マルタは朝から大忙しでした。なぜかというと、イエスさまが家にいらっしゃるからです。弟子たちも一緒にですし、イエスさまに会いたい人たちも訪ねてくるはず。家をきれいに掃除して、お食事の用意もたくさん準備して、大好きなイエスさまをおもてなしするためにマルタはわくわくしながら大忙しでした。



イエスさまのお話を聞くマリア 「こんにちは、マルタ。元気ですか、マリア。」イエスさまがいらっしゃいました。「まあ、イエスさま。どうぞお入りください」。マルタもマリアも大喜びで迎え入れました。マルタは張り切っておもてなしを始めました。「さあ、たくさんお召し上がりください」と自慢の料理を次々と出しました。「ああ、もっとパンを焼かなくちゃ。ほかの料理もなくなりそうだから、作らないと。ふう、大忙しね。あら、マリアはどこに行ったのかしら？」見回すと、妹のマリアはイエスさまの足元に座って、熱心に話を聞いているではありませんか。マルタは「まあ、マリアったら！私がこんなにたいへんなのに、手伝いもしないで…」と座り込んでいるマリアを見てイライラしてきました。「どうして私だけがこんなにたいへんなの」と腹が立ってきたのです。



とうとう我慢ができなくなって、マルタはすたすたとイエスさまのもとに行き、こう言いました。「イエスさま、私だけがおもてなしをしているのに、何ともお思いにならないのですか！少しは私を手伝うようにマリアにおっしゃってください」と、マリアを注意しないイエスさまに不満を言ってしまったのです。

大切なこと するとイエスさまは優しい声でおっしゃいました。「マルタ、マルタ。あなたはわたしをもてなそうと、いろいろなことをしてくれていますね。でも、本当に必要なことは一つだけなのです。マリアは本当に大切なことをしているのだから、それを取り上げることはできないのですよ。」

「本当に必要な一つのこと」とは、マリアがしていたこと、イエスさまのお話を熱心に聞くことでした。マリアだって「お姉ちゃんのお手伝いをしなければ」という気持ちはあったでしょう。それでも神さまのお話を聞くことをいちばん大切にマリアを、イエスさまは喜んでおられました。私たちがイエスさまのお言葉を熱心に聞いて、従おうとすることをイエスさまは何よりも喜んでくださいます。きっとマルタは、このあとマリアと一緒にイエスさまのお話を聞いたことでしょう。

